



UGANDA



工事風景



開通した「ナイル川源流橋」



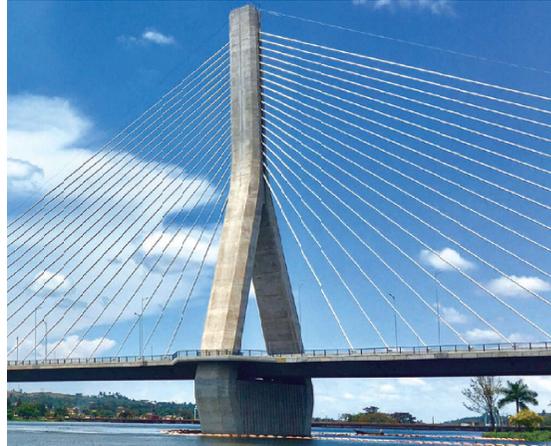
両側から閉合した橋桁



世界15カ国のスタッフが工事に携った



閉合直前の橋梁の俯瞰



開通式に集った日本関係者



開通式でイルミネーションが点灯された



開通式の渡り初めに集った地域の人々



開通式でテープカットを行うムセベニ大統領(右)と佐藤副大臣(左)。後方に亀田大使と深瀬 JICA 所長



<有償資金協力>

アフリカ「北部回廊」のボトルネックを解消し 地域経済を活性化する斜張橋を建設

物流の要となる橋梁の老朽化

ケニアのモンバサ港からウガンダ南部を横断し、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国まで通じる「北部回廊」は、東アフリカと中央アフリカをつなぐ最重要の物流ルートだ。モンバサ港で積み替えられるケニア国外へのトランジット貨物の8割弱はウガンダ向けであり、その中にはウガンダを通過して周辺国へ輸送される貨物も多い。このため北部回廊は陸上物流の要となっている。

しかし、この幹線道路では、ナ

イル川を横断するウガンダ・ジンジャ県のナルバレ橋が老朽化し、交通のボトルネックとなっていた。もともと水力発電用のダムに併設される形で1954年に建設されたナルバレ橋は、幅が7mと狭く、交通量の増加に対応できなくなっていた。この状況に鑑み、ウガンダ政府は2008年に策定した運輸交通マスタープランで、2023年までに北部回廊の道路を優先的に改善すると謳っていた。

一方、日本政府も、インフラ整備を通じた「経済成長の実現」を同国に対する開発協力の方針として

いたため、同国政府の要請とその後の調査を経て、本事業に対する有償資金協力のL/Aが10年及び18年に調印された。

地域最大級で120年耐用の斜張橋

本事業で建設された「ナイル川源流橋」は、ナイル川の源流であるビクトリア湖から25km下流(ナルバレ橋の750m上流)に位置する。施工に当たったのは、銭高組を中心とした国際共同企業体だ。設計・施工監理はオリエンタルコンサルタンツグローバルを主とした日本のコンサルティング企

ウガンダ
ナイル架橋建設事業

コンサルティング：(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル
(株)エイト日本技術開発
施設建設：(株)銭高組

業が当たった。

新橋は橋長約525mの3径間連続斜張橋。鉄筋コンクリート製の2本の主塔から左右に18本ずつ太いケーブルを伸ばし、同じく鉄筋コンクリート製の橋桁を支えている。主塔は水面からの高さ約80m、逆Y字形が美しい景観をなす。橋長は東アフリカ地域最大であり、日本企業が施工した世界の斜張橋と比べても、バイチャイ橋(ベトナム)、ネアックルン橋(=つばき橋、カンボジア)に次いで3番目に長い。幅員は23~25mで左右4車線が確保され、両側には幅2mの歩道も付いている。橋

の目標耐用年数は長期の120年と設定され、そのための種々の工夫も凝らされている。

アフリカの更なるインフラ整備に向けて

建設事業は14年4月から始まり、兩岸から建設が進められた。従業員の約9割は現地で採用され、地元への雇用にも貢献するとともに、ウガンダの建築・土木関係者への技術移転も重視された。4年後の18年4月、中央で橋桁が閉合。その後、ケーブルの張力調整や道路舗装を経て、同年10月、ナイル川源流橋は開通を迎えた。

開通式には、ウガンダのムセベニ大統領、亀田和明駐ウガンダ大使、佐藤正久外務副大臣(当時)、深瀬豊・JICAウガンダ事務所長などの要人をはじめ、約3000人が参加し、夜には橋のイルミネーションが点灯された。

ムセベニ大統領が日本政府をはじめとする関係者に感謝の意を表明したのに対し、佐藤副大臣は同橋の完成によってウガンダだけでなく近隣諸国の経済発展にも寄与できる旨の祝意を述べた。本事業が有償資金協力による東アフリカのインフラ整備の嚆矢となることを期待したい。



- 1 竣工式：橋廣治特命全権大使がテープカット
- 2 ここでも渡河交通が行われていた
- 3 橋梁は15カ所で建設された
- 4 欄干に埋め込まれた記念プレート
- 5 工事風景：橋桁の設置
- 6 竣工式：民族衣装の地元住民を先頭に渡り初め

最重要幹線に15橋梁を建設、住民の生活向上と経済発展に寄与

[パプアニューギニア] ブーゲンビル海岸幹線道路橋梁整備計画

パプアニューギニア政府は2006年に運輸セクターの政策見直しを行い、インフラの新設よりも既存のインフラの補修や維持管理に財源を優先的に配分する計画に改めた。この計画の中で、ブーゲンビル島の海岸幹線道路は最優先で整備を行うべき国道の一つとして選定されていた。

この海岸道路は、ココパウからアラワまで約190kmを結ぶ生活道路として、また、カカオやコプラなどの農産物を輸送するルートとして、ブーゲンビル島では最も重要な幹線道路である。しかし、同区間には、橋梁の破損や老朽化などによって架橋されていない所が15カ所もあり、通行に支障が出ていたため、同国政府は、橋梁改修の協力を日本に要請。調査の結果、経済性・施工性・耐久性などを考慮して、15カ所すべてについて新たな橋梁を建設することになった。

今回のプロジェクトが完了したことにより、海岸道路の全区間で川床を渡河することなく通行することが可能となった。これに伴い、所要時間は約1時間短縮され、増水時に発生していた年間30日程度の通行止めも解消される。また、乗用車・バイク・自転車など交通手段の多様化や、車両の大型化、車両数の増加にも対応が可能となることにより、日常生活に必要な物資の輸送が安定し、医療や教育施設へのアクセスが容易になるなど、沿線住民の生活環境は大きく向上する。

今後は、農林業などの地域経済の活性化や今後の地域開発にも大いに寄与していくものと期待されている。

コンサルティング

(株)長大
(株)エイト日本技術開発

施設建設

北野建設(株)